

平成 29 年度事業報告書

法人本部

1. 事業の概要

平成 29 年度はホームページの充実を図るため、新規作成に取り掛かりました。又、地域公益活動の推進については、長門市地域公益活動推進協議会の一員として、高齢独居者宅における粗大ごみ廃棄の為の搬出活動を実施するとともに、あんしん電話の広報活動を展開しました。

2. 事業の実績

	具体的施策	実績
1	ホームページの充実	<p>①法人内で統一したホームページの構築の為、新規事業者と契約し、作成を開始した。</p> <p>②ガバナンスの強化、公益的な取組を実施する責務、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化にホームページを通じて適時適切に対応していく。</p>
2	地域公益活動の推進	<p>①長門市地域公益活動協議会の一員として協議会が行った活動に積極的に参加した。</p> <p>②法人独自で展開する公益活動の発展の為、広報・PR 活動を実施。</p>

3. 事業の評価

ホームページ作成に於いては年度内の公開は出来ませんでしたが、各施設参加のもと内容の精査を重ね、今まで以上に発信力のある HP として出来上がってきており、6月初旬の公開に向け最後の調整を行っています。

地域公益活動に於いては推進協議会の実施する高齢独居者宅の粗大ごみ搬出活動に職員を 2 度派遣し、地域高齢者に喜ばれました。法人独自に展開している「あんしん電話」については、広く周知出来ていない点を踏まえ、事業所の開催する施設見学会や介護教室などを活用し広報・PR 活動を展開し新規利用に繋げる事が出来ました。今後も継続し活動を実施していきます。

以上

平成29年度 福祥苑事業報告

利用者の状況 (30.3.31)

入 所	入 所 者		重度障害者支援加算(Ⅱ) 対象利用者	
	定 員	男	女	男
49名	25名	24名	18名	12名

性別	平均年齢	平均在所年数
男	54.6歳（前年度53.6歳）	24年00月
女	56.7歳（前年度56.5歳）	23年00月
全体	55.1歳（前年度55.5歳）	24年00月

受給者証による障害支援区分(30.04.01現在)

性別\区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	計
男	18	6	0	1	0	0	25名
女	17	6	1	0	0	0	24名

総評及び援助・支援事業活動報告

平成29年度はここ近年感じている利用者の高齢化に伴う機能低下や体調・体力面の減退を強く感じた。今年度受けた各自治体の認定調査において、3年前の判定（支援区分）、また強度行動障害の認定を受けた利用者の認定判定区分が上がるという、予想を上回る結果となった。加齢により利用者の認知機能の低下、または身体的問題から、利用者一人ひとりにかかる支援時間も増えていったように思う。その中で利用者が毎日の生活で楽しみを見出せるようにと、昨年にも増して外出の機会を増やしたこと、利用者は有意義な一年を過ごしていただけたのではないかと思います。

日中活動においては、以前のように作業活動のみを中心としたものとはせず、カラオケ、リズム体操、紙芝居を使った読み聞かせが定着してきているが、皆が集まるとトラブルも増えていることから、西館・東館に分けて行うなどの工夫も行っている。また利用者の要望に応じた活動を増やすためにも、様々な意見を聞くようにしました。苑内でのオセロゲーム大会を発端に、久しぶりに山口県オセロゲーム大会にも数名の利用者が参加することができ、また結果にもそれなりに満足され次回は更に上を目指したいと言っております。学習・クラブ活動については、利用者の集中力、体力がこれまでのようにな継続する事が難しく、回数的には徐々に少なくなってきた。その為、皆さんのが楽しくできるようなゲーム大会などを多く取り入れるようにした。

今年度は異常気象で、夏は暑く冬が寒かったことから、体力強化のためのウォーキングを実施することが少なく、体力の低下や体重増加につながった。そのことから室内で出来る運動の見直しをし、バランスボールを行う利用者が増えている。今後は、以前行っていたラジオ体操の再開、新たな室内運動の取入れを検討したい。

外出では、昨年度行った食事メニューからのグループ分けが利用者に好評で、今年度は回転寿司に初めて行ったという利用者も多かった。身体的理由から個別に支援員が付く必要がある利用者が増え、これまでのような苑全体での社会見学等は今後難しいと考えています。10月に西京ホテルにて開催した「福祥苑開設30周年記念パーティー」は、関係者、保護者の多数の参加をいただき、大変盛況で終えることが出来ました。又2月に新年会ができなかったので「お食事会」を西京ホテルにて行いました。最近にない利用者全体の満面の笑みを見ることができたように思います。今後も更に利用者の笑顔が見られるような計画を検討し実施していきたいと考えます。

施設内研修には外部講師を招いた「口腔ケア」、「精神疾患を持つ利用者の対応」などこれから特に必要となってくる問題に取り組み、支援方法の見直しやスキルアップを図っている。また、今年度強度行動障害支援においては、支援者養成研修（基礎・実践研修）修了者を3名増やし、4名としている。強度行動障害支援実施については、平成30年1月より非営業日の日中の時間帯に支援を行うことで、個人加算を取っている。平成30年度4月からは本来の施設入所支援の時間帯に実施することで、更なる支援の充実を図るよう

にし毎日加算を取るようにしている。

昨年度より実施している、施設長とサービス管理者による必要訪問家庭(10家庭)においては、ほぼ達成することができた。今後も必要に応じて行っていく。

保健・衛生面では、昨年12月から今年の1月にかけインフルエンザが蔓延し、県への届出をする等の事態となり、新たな感染対策マニュアルを作成するなど対応に追われた。各マニュアルにおいても当事業所に合ったマニュアルの早急な見直しに取り組む必要性がある。また、今後個別利用者支援を行う為の、担当支援員との時間が十分に取れるようなく生活時間の見直し等検討したい。

平成29年度末には家族会を利用し、成年後見人制度について市の福祉課の方より講義を頂くなど今後取り組んでいくべき問題も多く、家族との連携を更に図る必要性を強く感じています。

（一年間の取り組み活動を3つの点から見ていくと

1. 支援活動の面

（1）生活支援

○基本的生活習慣の援助及び身辺自立能力向上を図り、社会参加への支援に努める。

（2）作業活動支援

環境整備班（利用者11名）

支援・指導方針

- 施設内外の清掃活動を通して、生活環境を清潔に保つことの大切さを意識付けする。
- 作物の栽培や収穫をすることで労働の大切さを知り、作物の成長過程を見ることで生じる驚きや感動によって豊かな心が育んでいけるような取り組みを行う。
- 生産物を施設内・外（同法人施設）にて販売することで、収益を上げて還元していく。
- 近隣の清掃を行う事で、地域貢献の一環とする。
- 月に1度、音楽療法士の指導の下、気持ちのリフレッシュが出来るようにする。
- 毎月、市内買い物を実施。

支援・指導内容

- 環境整備・施設周辺・施設内の整備及び清掃
- 季節に合わせた作物の栽培や収穫、その後の販売活動
- ホダ木の手入れや椎茸の収穫
- 音楽療法

実績及び問題点

圃場にて野菜を育て収穫した後、販売できるよう袋詰めを行う。同一法人事業所への販売活動も併せて行う。また、建物周辺の草取りや落ち葉集めをすることで、環境美化活動も行うが、作業日数が少なくなったことに比例して実働時間も少なくなり、生活環境を整えるまでには至っていない。環境整備班専属職員が作業以外の時間にも圃場での栽培活動をしてくれたおかげで作物の収穫はできるようになったが、実際に利用者が作物の栽培を通して体験できる時間が少なくなり、収穫に追われるような傾向になった。また、作業内容も年齢的なものや体力的なもの、技術的なものが影響して、やや難しそうにも感じられた。

音楽療法の時間には終始笑顔で楽しく参加することができており、しっかりと心のリフレッシュが図れている。今後もこの時間を有効に利用することで、より充実した生活が送れると思われる。

受 託 班（利用者14名）

支援・指導方針

作業を通して、物事を持続して丁寧に取り組む事や製品を作る喜びを感じてもらう。また皆で協力して行う事で協調性を養う。

支援・指導内容

○箱折り

- ・年間を通して、深川養鶏の菓子箱折りを行う。

○音楽療法

- ・音楽療法士の指示のもとに行う。

○作業棟などの清掃

○毎月、市内買い物を実施。

実績及び問題点

箱折りについては、定期的に箱を折る事により、納期を守ることができている。作業時に落ち着いて取り組めるように席の位置や周囲に配慮しているが、それでも落ち着かない利用者がいる時にはどうしたら良いか声かけをすることで、集中して作業に取り組めるように支援をしている。気持ちの切り替えができなかったり状態が悪く作業に参加できない利用者には事前に声かけを行い情緒の安定を図っている。それでも参加が出来ない場合には居室や落ち着ける場所にて過ごしてもらい定期的に状態の把握に努めている。

音楽療法では、作業同様の配慮を要しているが、療法士の指示を聞き演奏に合わせて体を動かしたり声を出す事が出来ている。内容によっては指示通りにすることが難しい事もあったが諦めることなく取り組む事が出来ている。イントロクイズは好評で、療法士が利用者の好む曲を取り入れてくれるので表情豊かに答える事が出来る。月1回の音楽療法ではあるが気分転換になっていると思われる。

陶芸班（利用者12名）

支援・指導方針

土鈴作りを通して仕事をする喜びや生きがいを感じる。また、音楽療法やウォーキングを行い気持ちの切りかえに努めて行く。

支援・指導内容

○土鈴作り

- ・年間を通して、土鈴作りを行う。

○音楽療法

- ・音楽療法士の指示のもとに行う。

○毎月、市内買い物を実施。

実績及び問題点

土鈴作りでは個々の能力等に応じた部所での取り組みを行ってもらっており、皆が無理をすることなく意欲的且つ積極的に参加をされていた。また、互いに協力をしながら作業を行っている姿が多く見られた。しかし、生活支援を重点的に行いうようになつたことで作業実施日低下となり生産力はかなり落ちている。また加齢とともにこれまでできていたことが難しくなっている利用者も居り、今まで以上に配慮を要すると思われる。

音楽療法を楽しみにしている利用者は多く、積極的な参加が見られた。歌ったりインストロクイズをしたり、ボールを用いたりと趣向を凝らしたメニューとなっており、精神的にもリフレッシュができていると思われる。

生活班（利用者12名）

支援・指導方針

○高齢化に伴う機能低下や予防に努め、機能維持を保つようにする。

○運動系…体幹及び足腰の筋力保持に努める。

○リラクゼーション系…五感を刺激し、情緒の安定に努める。

○屋外活動…外出日を設け、気分転換に努める。

支援・指導内容

○運動系…ウォーキング、歩行訓練（歩行器使用）、足つぼマット、ストレッチ、バランス運動、バランスボール

○リラクゼーション系…マッサージ、リーチコミュニケーション（タッピングなど）、足湯、スヌーズレン、音楽療法

○屋外活動…外出（公園など ※真夏及び冬場は中止）、買い物

実績及び問題点

今年度は作業時間も少なかったことでなかなか充実した支援は行えなかつたが、時間の許す限りでは集中して取り組めたようと思える。しかしながら、高齢化に伴い集中力や持続力といったものが低下しており短時間での取り組みになる事が多くなつてきている。また、他者と同じ空間にいることが難しい利用者や気持ちの切りかえが

難しい利用者、他班での折り合いが悪く一時的に生活班に参加する利用者がいることで個々の対応が多く必要となっていることも短時間の取り組みになる要因の一つである。

そういう状況でも音楽療法への参加は他の内容に比べれば比較的集中して取り組む事が出来ているように思える。しかし個々の対応が多く必要になってきていることに変わりはなく、活動担当支援員の確保が必要である。

(3) グループワーク支援

A 班 (利用者12名)

支援・指導方針

- 絵画や作文を通して自己表現を豊かにする。
- 容易な計算や文章の読み書きを通して表現の幅を広げ、日常生活に活かす。

支援・指導内容

- 日常や行事による作文や絵画
- 簡単な計算や漢字、文章の読み書き

実績及び問題点

計算に関しては能力の差が顕著に出たため、できる利用者は早々に問題を解いてしまい、難しい利用者には個別に支援員が付き、考え方を丁寧に教えながら取り組んだ。

利用者からの要望にて惑星についての問題を出すなど、利用者の嗜好、学習が面白いと思えるよう題材作りを行った。

辞書引きが出来る利用者が多く、識字率も高い為、図書館に出かけて調べ物を行うなどすれば違った雰囲気を味わえ、楽しく学習ができるのではないかと感じた。

B 班 (利用者15名)

支援・指導方針

- 簡単な物語を考えて、紙芝居を作成する。
- 読み書き・塗り絵を行い、簡単な脳トレーニングをする。

支援・指導内容

- 読み書き・記憶の学習
- 四季・行事に合わせた絵画・塗り絵や手遊び

実績及び問題点

利用者は、取りかかりは良いが、時間が過ぎていくにつれ、徐々に集中力が無くなり手が止まる利用者もみられるので都度内容の確認やこれから見通しを伝えることで時間内取り組めるようにしている。

塗り絵では、自分のペースで時間内集中して取り組むことが出来ている。一人一人個性が出た作品ができる。

足し算・引き算プリント（小学校1年～3年まで）では、簡単な問題はすらすら解ける

が、難しい問題になると時間を要すが分からずの利用者には支援員がマンツーマンで問題を解くコツを教えながら行っている。

漢字プリント（小学校1年～2年）では、このような字だったなという感覚で漢字を書く利用者が見られるが、正しい漢字を教えながら行う。最初からわからない利用者には、一度答えを書きそれを数回なぞってもらい覚えてもらう。時間内皆一生懸命取り組むことが出来ている。

C 班（利用者11名）

支援・指導方針

- 塗り絵や絵画制作等を通して四季を感じ想像力を身につける。
- 言葉や数字等の読み書きを行う。

支援・指導内容

- 生活に関する言葉等の学習

実績及び問題点

ほとんどの利用者は支援員の話を聞きながら内容に取り組むことが出来ているが集中力が続かない利用者もあり離席してしまうことがある。興味を持ってもらえるよう内容の検討や状態にあわせ声かけをすることで離席しない日も見られている。

塗り絵では、一人ひとりのペースで自由に好きな色を塗ってもらっている。枠をはみ出したり何度も重ねて元の絵が分らなくなる利用者もいるが自分の思うように手を動かしてもらっている。名前が記入できる利用者には名前を記入してもらっている。正確に記入できる利用者は少ないが一字一字丁寧に書こうとされている。

ひらがなの書き取りではやや難しい利用者もあり支援を要すが、分からず嫌だと言う利用者はおらず一生懸命取り組まれている。

色合わせ・字合わせでは言葉で伝える事が難しい利用者もあり、同じ物を渡し指で指す、持つ等で答えることができるようになると出来る喜びを味わえるようにしている。

D 班（利用者11名）

支援・指導方針

- 季節に合わせた塗り絵や飾り制作を行いながら利用者の想像力を豊かに育む。
- 楽器演奏やヒーリングなどの音楽を通して情緒の安定を図り自己表現の場を設ける。

支援・指導内容

- 四季・行事に合わせた絵画や合奏

実績及び問題点

季節や時期に合わせて題材を用意し、それぞれ好きなように塗ってもらう。ほとんどの利用者は色塗りを楽しんで行えている。しかし、対照的にまったく集中していない利用者もある。その場合には違う塗り絵を用意したり、貼り絵等手先を使う他の内容をしてもらったりすることで楽しむことが出来るようになっている。

音楽活動では曲を流し、曲に合わせて好きな楽器を選び鳴らしてもらう。また利用者によってはバランスボールに乗って全身でリズムを取りながら楽器を鳴らすことを好んでいる。音楽に関してはほとんどの利用者が楽しんで参加している。

絵画を好む利用者はあまり多くはないが機能維持も兼ね、手を動かす事、手先を使うことをできるだけ取り入れるようにしている。

(4) クラブ活動支援

運動クラブ（利用者16名）

支援・指導方針

○身体を動かすことにより機能維持・増進・低下を防ぐ。また、ゲームをしながら楽しく体を動かすことで情緒の安定を図る。

支援・指導内容

○ウォーキング（市民グラウンド・苑周辺）

○屋内での運動

・柔軟体操、ゲーム（ボウリング・輪投げ・ボール投げ）

○ルネッサ公園での活動

実績及び問題点

各自の体調に合わせて、同じ場所でも同一の内容ではなく違うメニューを提示し活動を行っている。体調・体力面も配慮し各々に合った活動をするため、利用者は楽しく持続して取り組む事が出来ている。市民グラウンドでのウォーキングを計画していたが対応支援員が毎回充実しているわけではないので、苑周辺のウォーキングとなった。利用者は楽しめていたがいつもと違う場所で行う事で気分が変わりいつも以上に充足感が味わえるのではないかと思う。

ゲームクラブ（利用者9名）

支援・指導方針

○ゲームを通して他利用者とコミュニケーションを図ることで、楽しみながら基本的なルールや遊び方を覚えて行く。

支援・指導内容

○グループ内の利用者とオセロゲームやボードゲームを行い思考力を養っていく。

実績及び問題点

実際にゲームを行いながらルールの説明をしていく。理解力に差があり一部の利用者においては、ゲームを理解するまでには至らず余暇時間の有効利用に繋がらなかった。しかし、一つ一つ声かけをしながら駒を動かすことでゲームの雰囲気を味わう事は出来たようだ。また、積極的に他者との交流を好みない利用者もゲームを通じて交流を図る事が出来ている。

カラオケクラブ（利用者24名）

支援・指導方針

- みんなで楽しみながらしっかりと声を出し体を動かす。また、カラオケを通してルールを覚え一体感を味わう。

支援・指導内容

- 好きな歌を歌う
- 昔懐かしの歌を歌う
- リズムに合わせて歌う

実績及び問題点

事前に希望を聞き一人で歌ったり複数人で歌っている。参加人数が多く自分の番が来るまで待つことになるが、順番を伝えたり利用者によっては了承のもと順番を変えてもらう事で対応している。好みの曲を選び歌う事が出来た後は知っている歌や昔懐かしい歌などみんなで一緒に歌い全体で楽しむ事が出来ている。字が読めない利用者は傍で歌詞を伝えながら一緒に歌うことで楽しく参加することが出来ている。曲にあわせ支援員が振り付けをしたり率先して声を出すことで、歌わない利用者もその場の雰囲気を楽しめている。

2. 保健・衛生の面

支援・指導方針

- 日常生活の見直し及び把握について、利用者が健康及び安全に生活できるように指導し、疾病の治療においても早期発見、治癒に努め精神安定を図るように支援する。
- また、ケガや事故防止に注意し高齢化対策に努める。

支援・指導内容

- 口腔ケアの徹底（歯磨き支援）指導
- 嚥下指導（嚥下状況の確認及び嚥下体操などの取りいれ）
- 日常生活の見直し（手洗い、うがい）指導
- 健康管理に関する支援（疾病の予防・早期発見・治療）
- 生活習慣の見直し支援【運動の促進、間食（おやつ）などの確認
- 健康診断（年一回）、採血、胸写及び定期内科検診の施行
- 環境衛生の管理、指導及び室内温度の調節、こまめな換気指導
- 安全面の見直し及び指導（転倒、事故防止）
- 害虫駆除（年一回）
- 利用者使用のトイレの清掃、洗面所等の衛生指導及び確認
- その他
- 施設内研修にて、高齢化及び緊急時の対応や知識・技術の向上、職員の意識的改革改善
- 感染症に対する知識の見直し、講習による実践
- インフルエンザ予防接種施行
- 保健だより作成（年二回）・配布により、苑内状況、情報提供

実績及び問題点

外部利用者からのインフルエンザにて感染拡大し受診及び対応に追われ、拡大防止に努めるも集団生活、建物の構造上難しく苦戦した。疾病においても入院手術と、年々高齢化という面で前年度より件数は増え、日常生活においても、転倒（事故等）で骨折し受診しているのが現状である。また、嚥下状態の悪化にて点滴治療の必要な利用者の通院と、急変にて病院の受診が増加している事も現状の一つである。今後もこの様な状況が増えて行く事は考えられるうえ、改めて各支援内容の見直し検討の必要性を要すと共に、各部署との連携及び職員の意識的改革を図りスキルアップに繋げて行く事が必要不可欠であると思われる。

3. 給食及び栄養ケア・マネジメント

平成29年度 食数

利用者

平成29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期計
朝	1461	1506	1470	1517	1448	1451	8853
昼	1460	1467	1451	1517	1448	1450	8793
夕	1461	1506	1470	1517	1446	1450	8850
合計	4382	4479	4391	4551	4342	4351	26496

平成29年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期計	総計
朝	1481	1470	1506	1447	1400	1549	8853	17706
昼	1474	1470	1483	1456	1400	1547	8830	17623
夕	1496	1470	1483	1471	1400	1549	8869	17719
合計	4451	4410	4472	4374	4200	4645	26552	53048

・欠食等について

昨年度に引き続き、帰省や入院、外泊外食があるため食数のばらつきがある。

食事形態（平成30.03.31現在）

普通食	37名
荒刻み食	6名
総刻み食	3名
極小刻み食	1名
ミキサー食	2名
入所者数	49名

*療養食加算対象者	
糖尿食	3名
心臓食	1名
	4名

*栄養ケアマネジメントは入所者全員に行う。

年間行事

4月	5月	6月	7月
開苑記念日（にぎり寿司） 花見（重箱弁当） 誕生日会ランチ (4、5月誕生者希望 メニュー) 郷土料理の日（青森県）	子供の日メニュー 誕生日会（ケーキ） 郷土料理の日（栃木県）	焼き肉バイキング お好みデー 誕生日ランチ (6、7月誕生者希望 メニュー) 郷土料理の日（北海道）	七夕メニュー (そうめん) うなぎの日 誕生日会（ケーキ） お好みデー 郷土料理の日（熊本県）
8月	9月	10月	11月
うなぎの日 誕生日会ランチ (8、9月誕生者希望 メニュー) 郷土料理の日（宮崎県）	防災の日（非常食） お好みデー おはぎの日 郷土料理の日（北海道） 誕生日会（ケーキ）	ふれあい広場 (カレー、肉うどん) 栗ごはん まつたけごはん 誕生日ランチ（10、11 月誕生者希望メニュー） 郷土料理（山形県）	お好みデー 誕生日会（ケーキ） 郷土料理の日（山口県）
12月	1月	2月	3月
クリスマス忘年会 餅つき 年越しそば・にぎり寿司 誕生日ランチ（12、1月 誕生者希望メニュー） お好みデー 郷土料理の日（富山県）	お正月メニュー（お せち） 七草粥 鏡開き（せんざい） 誕生日会（ケーキ） 郷土料理の日（宮崎県）	節分メニュー バレンタインメニュー お好みデー 誕生日ランチ（2、3月 誕生者希望メニュー） お食事会 郷土料理の日（愛知県）	ひな祭り献立 おはぎの日 大鍋豚汁会 誕生日会（ケーキ） 郷土料理の日（長崎県） ステーキの日

考 察

- ・レベル低下にて食事形態の変更がみられた。咀嚼嚥下の低下がみられる。
- ・利用者の嗜好に配慮し、各県の郷土料理を献立に取り入れたり、誕生者の希望メニューも引き続きおこなった。
- ・利用者の食事量の調整により、2名以外はほぼ標準体重が保たれている。
- ・療養食加算対象者を含め、通年病状および体調の安定がおおむね見られたが、1名食事摂取量のムラがあり、補助食等の対応を行った。
- ・健康、衛生管理については、インフルエンザの発生により、病時食の対応をした。
- ・インフルエンザの予防のため、12月から3月まで緑茶、紅茶の提供に変更した。
- ・食中毒、ノロウイルスの発生は無く、安全に過ごせた。

※平成29年度行事内容

月	日	行 事
4 月	1 日	○ 新年度オリエンテーション
	4 日	○ 花見
	7 日	○ 避難訓練
	21 日	○ 誕生日ランチ
5 月	6 日	○ 家族会総会
	11 日	○ 苑外レクリエーション（農業者トレーニングセンター）
	15 日	○ 買い物・外食（回転寿司～利用者…8名）
	17 日	○ 買い物・外食（回転寿司～利用者…8名）
	19 日	○ 買い物・外食（とんかつ～利用者…4名）
	20 日	○ アイリンピック（山口市維新百年記念公園 陸上競技場） (利用者…21名)
	22 日	○ 防災避難訓練
	25 日	○ 誕生会
	26 日	○ 買い物・外食（とんかつ～利用者…5名）
	29	○ 買い物・外食（とんかつ～利用者…6名）
6 月	2 日	○ 買い物・外食（バイキング～利用者…5名）
	3 日	○ 奉仕作業
	9 日	○ 買い物・外食（イタリアン～利用者…5名）
	12 日	○ 買い物・外食（バイキング～利用者…5名）
	14 日	○ 焼肉大会
	20 日	○ 避難訓練
	23 日	○ 自由外出 ★ボウリング（利用者…9名）
	25 日	○ 長門市身体障害者スポーツ大会（利用者…3名）
	29 日	○ 誕生日ランチ
7 月	7 日	○ 七夕会
	10 日	○ 自由外出 ★映画（利用者…11名）
	19 日	○ 避難訓練
	20 日	○ 萩博物館見学（利用者…7名）
	21 日	○ 自由外出 ★果物狩り（利用者…2名）
	23 日	○ 仙崎花火大会鑑賞（利用者…7名）
	26 日	○ 自由外出 ★カラオケ（利用者…4名）
	29 日	○ 誕生会
	31 日	○ 花火大会
8 月	12 日	○ 家族会・納涼会・盆帰省（12日～15日）

8月	13日	○ お楽しみ会（在苑者対象）
	23日	○ 総合避難訓練
	26日	○ ゆもと苑・吉祥苑納涼祭参加（利用者…14名）
	29日	○ 誕生日ランチ
9月	1日	○ 防災の日
	6日	○ 苑外レクリエーション（農業者トレーニングセンター）
	10日	○ 赤崎山まつり見学（利用者…2名）
	25日	○ 誕生会
	30日	○ ふれあいひろば
10月	12日	○ 福祥苑創立30周年記念（ホテル西京）
	16日	○ 避難訓練
	17日	○ 自由外出 ★ドライブ（利用者…7名）
	26日	○ 自由外出 ★ドライブ（利用者…7名）
	27日	○ 誕生日ランチ
11月	6日	○ 大寧寺清掃活動（利用者…4名）
	11日	○ 第1回ながと介護フェスタ（利用者…16名）
	17日	○ 避難誘導訓練
	21日	○ 焼きいも会
	24日	○ 誕生会
12月	6日	○ 焼きいも会
	13日	○ 避難訓練
	18日	○ 誕生日ランチ
	22日	○ クリスマス・忘年会
	29日	○ 家族会・餅つき大会・正月帰省 (12月29日～1月4日)
1月	2日	○ 新年お楽しみ会
	6日	○ 初詣 豊川稲荷（利用者…6名）
	24日	○ 誕生会
2月	3日	○ 節分
	4日	○ 山口県県知事選挙投票（利用者…7名）
	27日	○ 誕生日ランチ
	28日	○ お食事会（ホテル西京）
3月	3日	○ 桃の節句
	4日	○ 避難訓練（関連施設との連携）
	25日	○ 家族会・豚汁会・一時帰省
	28日	○ 誕生会
	29日	○ 大寧寺清掃活動（利用者…9名）ゆもと苑と合同

平成 29 年度事業報告書

事業所名：養護老人ホームゆもと苑

1. 事業の概要

平成 29 年度、養護老人ホームゆもと苑は、①自立を基本とする「その人らしい生活」が集団生活に於いても継続できる為の総合的援助 ②在宅を離れても、健全で安らかな生活の場の提供 ③地域住民に必要とされる施設作り、以上の 3 つを目標に掲げ、職種間だけではなく措置機関である行政を中心に、施設事業に携わる福祉や医療関係者との連携を図り、施設の役割が果たせるよう努めました。

入所の希望者もあり定員数 50 名は安定して推移しましたが、入所理由が「経済面や環境面の支援」だけでなく、自立度の低い方や管理を必要とする疾患を持つ方の入所が多く、「自立を基本とした見守り支援」の枠組みを超えた援助や介護の必要性が高くなっています。その為、日々の生活援助は、個々の意思や判断を尊重するだけではなく、自立した生活の継続に必要な支援者側の判断や選択も重要となっています。

2. 事業の実績

	具体的施策	実 績
1	<p>処遇計画は、PDCA の流れに沿い実施する</p> <ul style="list-style-type: none">・意思や希望を主体にニーズに沿った支援計画・職員の知識や能力の向上・余暇活動の充実	<ul style="list-style-type: none">・各種会議の中で、情報交換を基に評価や見直しを実施。PDCA の流れを作る。・自立心や生活意欲を尊重した上で、必要な支援内容（介護サービス含む）を見極め、支援の統一化に努めた。・専門的知識の習得に、施設内外の研修に参加した。・アンケートを通して、内容の見直しや工夫を図るが参加者の偏りは続いている。今後の課題と考える。
2	<p>安心して暮らせる環境や体制を整える</p> <ul style="list-style-type: none">・マニュアルの見直し・健康管理への意識向上・生活環境の整備・身元引受人との協力支援	<ul style="list-style-type: none">・心身共に健やかに過ごせるよう、施設内外の環境整備や個別の対応に努めた。・入所者の多様化に向けたマニュアルの見直しを試みた。・健康教室を開催。感染症対策への意識は高まるが、個々の疾患においては意識が薄く、管理力の低下が伺える。栄養指導も合わせて課題が多い。・破損や故障は速やかに対応又、心身の状態に合わせた居室環境整備にも努めた。・入所者・家族・施設との関係作りを目的に、家族会を開催。重要な事案については、協力を仰ぐ。

3	地域ニーズに沿った施設作り • 生活の場の提供 • 地域活動や奉仕活動への参加	• 地域の拠点施設としての役割が果たせるよう、行政や福祉、医療関係者との連携を図った。 • 日常生活の継続に繋がるよう、環境的支援と生活支援の体制に努めた。 • 地域主催のイベントや奉仕活動への参加を試みるも施設周辺に留まり、広域的な活動参加は難しい。
---	--	--

3. 事業の評価

近年、男性入所者が増加傾向にあり、定員 50 名の内 19 名は男性です。年齢層は 60 代から 90 代と幅が広く、入所に至る経路も在宅・病院・介護保険施設と多岐に渡っています。さらに、個々に抱える課題も多様化していることから、集団生活の中で、入所者同士が共有できる場も少なくなっています。

自立を基本とした「その人らしい生活」の継続に必要な処遇計画の作成には、他職種連携が重要であり、会議を情報や検討の場として有効活用しています。

自己意思を持ち、主張できるのが養護施設の特徴ですが、個性が他者との関係作りに大きく影響する為、生活への不満や苦情に繋がることが多く、中々、解決策が見つからないのが現状です。措置機関である行政とは、入所から退所に至るまでの期間、情報共有を図ると共に、生活上の問題行動が進退に関わる事案については協議の場を設け、関係者間での対策に努めています。

年間行事や活動は、概ね計画通り行いましたが目的が食事や買い物以外の外出活動については、参加者の偏りを感じます。入所者の表情や活気から、食事や買い物が生活上の楽しみであることは明らかですが、他者との交流を目的とした余暇活動の役割は重要であり、参加者の顔ぶれが変わらるよう、内容の見直しに努めています。

今年度は、年 2 回の便りの他、入所者・家族・施設の関係作りを目的とした家族会を開催しました。参加者は僅かでしたが、家族との繋がりを保つ為、継続していきます。

昨年より年間入院者数は減少しましたが入退院を繰り返す方は多く、又、日々の観察が必要とされる疾患もある為、医療面での支援は大きくなっています。入所者の中には、精神疾患や認知症の方も多く、心の安定が生活への継続に繋がります。職員の知識と援助技術を高めることで生活を支えると共に、医療関係者との連携を図って参りました。

入所者の安全な暮らしと生活への支障を考慮し、破損や故障への対応は早期に取組みましたが、機能低下に合わせた環境や道具の見直しについては、一部持ち越しとなりました。介護サービスの利用者も多く、ハード面の対策や改善が必要となっています。

見学や入所相談があれば、地域住民の要望に応えられるよう努めましたが、行政が窓口の為、養護施設の役割や生活等、詳細が明確に伝えられていないこともあります。今後の課題である公益活動への参加を交流の切っ掛けとし、環境支援と生活支援の両面で支える施設として、地域との良好な関係作りに努めていきたいと考えています。

平成29年度の実績

(1)月別利用者数(介護給付)

養護老人ホームゆもと苑

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
介護給付	要介護1	6	7	7	7	8	8	8	8	8	9	9	93	42.3%
	要介護2	9	9	8	8	8	7	7	7	7	6	91	41.4%	
	要介護3	3	4	3	3	2	3	3	3	3	3	36	16.4%	
	要介護4											0	0.0%	
	要介護5											0	0%	
	要介護人数	18	20	18	18	18	19	18	18	18	19	18	220	—
年	月末人数	50	49	49	50	50	49	50	49	50	50	50	—	—
	要介護人数	19	19	19	20	21	21	20	21	21	20	22	244	—
	月末人数	50	50	50	50	50	50	50	50	48	49	49	—	—
	要介護人数	▲1	1	▲1	▲2	▲3	▲2	▲2	▲3	▲3	▲3	▲4	▲24	—
	月末人数	0	▲1	▲1	0	0	▲1	0	▲1	0	2	1	—	—

※介護度を持つ者の割合

(2)月別利用者数(予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
予防給付	要支援1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	100%
	要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援人数	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	—
	月末人数	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	—	—
	要支援人数	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	8	—
	月末人数	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	—	—
年	要支援人数	1	1	1	1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲4	—
	月末人数	1	1	1	1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	—	—
増減	要支援人数	1	1	1	1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲4	—
	月末人数	1	1	1	1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	—	—

(3)年齢構成

平成30年3月31日

年齢	男性	女性	計	割合
60歳未満	0	0	0	0.0%
60歳～64歳	0	1	1	2.0%
65歳～69歳	4	5	9	18.0%
70歳～74歳	4	3	7	14.0%
75歳～79歳	4	3	7	14.0%
80歳～84歳	4	10	14	28.0%
85歳～89歳	2	7	9	18.0%
90歳～94歳	0	1	1	2.0%
95歳～99歳	1	1	2	4.0%
100歳以上	0	0	0	0.0%
計	19	31	50	
最高年齢	95	98	—	—
最低年齢	67	64	—	—
平均年齢	—	—	79	—

●平成29年度新規

入所前
在宅
病院
施設
計

●平成29年度退所

退所後
病院
老健
特養
その他(死亡 他)
計

平成 29 年度事業報告書

事業所名：養護老人ホームゆもと苑生活支援短期宿泊事業

1. 事業の概要

長門市高齢者短期宿泊事業実施要綱について、平成 29 年 4 月 1 日の改正に伴い、自立支援事業については地域包括支援事業へ移行しました。老人ホームゆもと苑生活支援短期宿泊事業は、市内に住所を有している概ね 65 歳以上の在宅で生活する高齢者が、介護保険サービス及び障害福祉サービスを利用することが出来ない緊急性を有する場合に該当となります。近年は、災害時や高齢者虐待及び、警察保護等を中心とした利用が主体となるため、行政を始めとする公的機関との情報共有が必須となっています。

2. 事業の実績

	具体的施策	実績
1	災害や高齢者虐待法に伴う利用は、速やかに対応する。 事情に応じた対応が必要となるため、行政との連携は密にする。	随時、相談案件はあるも、利用には至らず。 実績はなし。

3. 事業の評価

長門市高齢者短期宿泊事業の改正に伴い、事業の中で自立支援としての役割が外れ、緊急性を伴う案件の利用が主体へと移行されました。年間を通して、随時行政機関より相談案件はありましたが、今年度の利用はありませんでした。施設の体制と対象者の身体的・環境的な要因が合わず、行政機関による協議の結果、見送りとなるケースもありました。しかしながら、生活支援短期宿泊事業は、在宅の高齢者が一時的に安心して過ごせる仕組みの上で大きな役割を担っていると考えます。緊急時の受け入れは、情報が混乱する為、行政からの情報を明確にすることで、出来る限り利用される方の不安や困惑の軽減を図りたいと思っています。

今後については、どんな状況においても速やかに受け入れや支援が行えるよう、行政との情報共有を密にし連携を図っていきたいと考えます。

以上

平成 29 年度事業報告書

事業所名： 配食サービス

1. 事業の概要

配食サービスは、平成 29 年度の事業を ①配食サービスを通じての自立支援、②一人暮らし世帯の訪問を通じての地域貢献活動の 2 つを目標として推進して参りました。実績は、下記 2 に示している通りです。

今年度の配食数は、1,646 食で昨年（1,718 食）とほぼ変わりがありません。湯本地区の利用者様が安心して生活できるよう、配達時には積極的に会話をし、時間の認識をして頂けるようカレンダーを配布し配達の曜日と時間を確認して頂きました。引き続き、地域に密着し地域で必要とされる事業所として運営を継続して参ります。

2. 事業の実績

	具体的施策	実 績
1	配食サービスを通じての自立支援	自立支援を目標としてカレンダーを作り、配達曜日や時間の確認をしてもらった。
2	一人暮らし世帯の訪問を通じての地域貢献活動	配達時には積極的にコミュニケーションを図り、利用者の状況把握に努めた。

3. 事業の評価

在宅支援を支える大きな要素としての「食の自立」は、日常生活の基礎であり必要不可欠のものです。当法人の配食サービス事業は地域の方々を中心にお昼のみではありませんが「食」の提供をさせて頂いています。

また、配食サービスを通じて、一人暮らしの高齢者の在宅に定期的に訪問することで、利用者の状況把握ができ、有事に迅速に対応することができます。実際に昨年度は利用者の特変に気付き、救急要請や家族への連絡に繋ぐ事が出来たケースが 2 件ありました。

今後とも、継続して事業を継続して参りたいと思います。

以上

平成 29 年度事業報告書

事業所名：調理

1. 事業の概要

平成 29 年度は、①利用者様個々に応じた食事を提供し栄養管理をする。②楽しく参加できるイベントを企画する。③地産地消。を目標に掲げ事業を展開して参りました。その結果は下記 2. に記載のとおりです。

利用者様の状態を把握し、他職種と連携することでその方に最適な食事形態での提供ができたのではないかと思います。また、食事形態が不安定な方には 2 種類の形態で対応し、どちらが良いか検討することにおいての連携を図ることもできました。

楽しく参加できるイベントでは、ゆもと苑でどら焼きを利用者様と一緒に焼いたり、喫茶を実施したり楽しめるイベントができたのではないかと思います。吉祥苑では利用者様の前で調理したり、リクエストを募って移動喫茶を行ったりと普段とは違った雰囲気を味わっていただくことができました。

また、地産地消の日を設けて 3 年が経ちました。来年度以降は更に地産地消を推進して行きたいと考えます。

2. 事業の実績

	具体的施策	実績
1	安心安全でおいしい料理の提供。 個々に応じた食事形態で提供。	事故無く調理することができた。 他部署との連携で、その方に適した食事形態での提供ができた。病気による制限食や形態食の方が増えたが、おいしく食べて頂ける工夫をした。トロミの研修も行うことで、トロミについて再度知ることができた。
2	みんなで調理し、食を通してコミュニケーションをとる。	喫茶を実施することで食を通してのコミュニケーションが図れた。 利用者様と一緒に調理することで利用者様も喜ばれていたように思う。
3	地産地消の日を設ける。 旬のものを取り入れた献立を立てる。	地産地消の日では、地物の野菜や魚を使用し実施することができた。 違った方法で地産地消ができないか検討していくたい。

3. 事業の評価

今年度も大きな事故もなく、調理場から食中毒も出さずに毎食安全に食事を提供することができました。来年度も大量調理マニュアルをよく把握し、安全に食事を提供していくことを心がけたいです。

今年度は利用者様に喜んでいただけるイベントの企画を重視し、喫茶に力を入れました。利用者様と一緒に調理することでとても和やかな空間になり、喜ばれたのではないかと思います。また、リクエストを募ることで、どのような物が好まれているか知ることができました。利用者様からもまたして欲しいという意見もあるので来年度も引き続き実施したいと考えています。

利用者様の状態も常に変化しており、食事形態・制限食による特別食も複雑化してきています。その方に適した食事形態で提供できるよう対応したいと考えています。また、今年度はトロミについての研修を行い、トロミ剤の基本的な使用方法を再確認することができました。

最後に、地域貢献として今年度も引き続き地産地消の日を設け、様々な食材を使用しました。来年度も長門の特産品を使用した献立を考え、併せて違った方法での地産地消も検討したいと考えています。

平成 29 年度事業報告書

事業所名：居宅介護支援事業所

1. 事業の概要

平成 29 年度居宅介護支援事業所は、①居宅介護支援事業所として地域からの信頼を築く。②事業所の PR 活動を継続する。③地域貢献として地域住民の介護保険への理解を深める活動を行う。を基本方針として自立支援を基本とした利用者本位のケアマネジメント業務に努めてきました。

2. 事業の実績

	具体的施策	実績
1	専門知識の取得と困難事例の受け入れ	<ul style="list-style-type: none">・外部研修（14回）、地域ケアネットワーク会議（11回）に参加、部署内研修（6回）実施。・電話、来所、訪問先での紹介などにより、相談のあったケースは、サービス利用、施設入所の有無に拘わらず、困難と思われる事例等に対しても丁寧に応対し、相談の受け入れを行った（新規利用：36件、相談のみ 11 件）・自立支援、ご家族の必要性を重視し、難病・認知症・病状悪化による看取りとなったケースも対応。
2	チラシの配布、地域サロン等での PR	施設見学会（1回）介護教室（1回）の開催、その他医療機関や他事業所との連絡、研修会の参加、相談の機会にチラシの配布を実施。他事業所、市役所・包括・医療機関からの紹介はもちろん、家族や知人から「ゆもと苑居宅」へ直接電話等で相談のあるケースも増加しており、周知が広がっていると評価している。
3	「介護保険教室」「介護保険相談室」開催	6月にゆもと苑・吉祥苑合同での「施設見学会」の実施、居宅受け入れにて「深川中学校吹奏楽部演奏会」を実施しました。8月、11月には、他事業所と共同で「介護教室」実施。

3. 事業の評価

平成 29 年度の居宅介護支援事業所は、ケアマネ 3 名（常勤換算 2.6 名）で事業を推進しました。今年度は市内で発足した「在宅ネットながと」に「ゆもと苑居宅」と

して在宅医療介護連携に関する取り組みへの積極的な参加と情報収集、これまでにも実施している地域ケアネットワーク会議などの他事業所主催の研修会等に継続的に参加し、顔の見える連携作りと「ゆもと苑居宅」のPR、信頼関係の構築に努めました。その結果、他事業所や包括・市役所・医療機関などから新規利用の相談を受ける事ができ、一定の評価を得ているものと考えます。一方、今年度目標としていた「介護教室」「介護相談室」の開催が十分に実施出来なかつたことを受け、次年度に向けて取り組みを検討していきます。

また、困難事例も受け入れるという方針のもと、サービス利用の有無にかかわらずご本人の自立支援・生活状況、ご家族の必要性を重視し、難病・認知症・また病状悪化に伴い看取りとなつたケースも誠心誠意取り組んできました。これらの取組と研修の参加、実施を合わせ、知識と経験を深めたものと考えています。

平成30年度は介護報酬改正もあり、これまで培ってきたものを継続し、新たな知識を取得しながら次年度に取り組んで行きたいと考えています。

以上

平成29年度の実績

(1)月別利用者数(介護給付)

居宅介護支援事業所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比	
介護給付	要介護1	34	35	35	35	36	34	35	35	37	36	38	40	430	37.9%
	要介護2	37	37	34	35	36	34	35	33	35	35	33	33	417	36.7%
	要介護3	15	14	16	16	14	16	16	17	16	15	14	14	183	16.1%
	要介護4	8	8	7	7	6	6	6	7	7	7	8	84	7.4%	
	要介護5	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	21	1.9%	
	延人数	95	95	94	95	94	92	94	97	95	94	96	1,135	—	
	月末人数	95	95	94	95	94	92	94	97	95	94	96	—	—	
28年	延人数	98	97	98	93	92	92	96	97	97	95	96	98	1,149	—
	実人数	98	97	98	93	92	92	96	97	97	95	96	98	—	—
増減	延人数	▲3	▲2	▲4	2	2	0	▲2	▲3	0	0	▲2	▲2	▲14	—
	月末人数	▲3	▲2	▲4	2	2	0	▲2	▲3	0	0	▲2	▲2	—	—

(2)月別利用者数(予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比	
予防給付	要支援1	3	4	4	4	3	6	5	5	5	6	5	56	27.2%	
	要支援2	9	9	10	11	12	12	13	13	14	15	15	150	72.8%	
	延人数	12	13	14	15	15	18	18	18	19	21	20	206	—	
	月末人数	12	13	14	15	15	18	18	18	19	21	20	23	—	
	28年	延人数	11	10	11	12	13	12	12	13	11	11	9	137	—
	月末人数	11	10	11	12	13	12	12	13	11	11	9	12	—	
	増減	延人数	1	3	3	3	2	6	6	5	8	10	11	69	—
	月末人数	1	3	3	3	2	6	6	5	8	10	11	11	—	—

(3)年齢構成

平成30年3月31日

年齢	男性	女性	計	割合
60歳未満	1	0	1	0.8%
60歳～64歳	3	4	7	5.7%
65歳～69歳	3	1	4	3.3%
70歳～74歳	2	4	6	4.9%
75歳～79歳	6	6	12	9.8%
80歳～84歳	11	25	36	29.3%
85歳～89歳	10	20	30	24.4%
90歳～94歳	2	17	19	15.4%
95歳～99歳	1	7	8	6.5%
100歳以上	0	0	0	0.0%
計	39	84	123	
最高年齢	95	98	—	—
最低年齢	56	60	—	—
平均年齢	—	—	83.2	—

●平成29年度利用者補足

新規	36名
----	-----

●利用中止理由内訳

施設入所	5名
入院	13名
死亡	9名
その他	1名
計	28名

平成 29 年度事業報告書

事業所名：ゆもと苑指定訪問介護事業所

1. 事業の概要

介護保険制度の目指す「個人の選択の尊重」「個人の希望に基づくサービス（ニーズ）の提供」を実現するために、訪問介護サービスの援助の統一化・効率化に対応できる知識習得、個人教育を行い運営の基盤の強化を行うことが出来たと考えます。

また、利用者のニーズを把握し、「自立の援助」を基本的な柱として「利用者の選択肢」を広げながら、人間性を尊重した援助と、在宅サービスの独自の質の高いサービスを提供し、人と人とが関わり合う訪問介護で、信頼と温かい心ふれあう援助に取り組んで参りました。

平成 29 年度事業の計画に対する実績は下記の通りです。今年度は新規利用契約者の獲得に注力しましたが一定の契約解消も発生し、併せて入院等による利用の休止で年間のサービス利用者数は微増となりました。提供するサービスの種類も生活介護が増加しサービス単価は減少となっています。

2. 事業の実績

	具体的施策	実 績
1	特定事業所加算Ⅱの開始に伴う利用者への対応 職員の知識の習得・事務的対応	利用者及び家族には加算取得時に各担当が訪問し、説明を行い、理解を得ることができた。また、職員には合同会議において研修を行い、知識の習得を行うことが出来た。 特定事業所加算Ⅱを取得したが、身体介護の利用者の減少により、介護報酬は減収となった。
2	訪問介護員の専門性知識の習得・個人教育	毎月行う合同会議にて課題別に研修を行い、専門性知識の習得が出来た。 今年で 5 年目となる個人教育については、教育計画に沿ったレポートの提出を毎月行い、より高い知識の習得への必要性と理解が深まり、合同会議にて発表しあい職員間で共有することも出来た。
3	環境美化の意識向上 (大寧寺清掃)	3 月 29 日 大寧寺清掃を福祥苑の利用者（13 名）とともにを行い、環境美化に務めることが出来た。

3. 事業の評価

平成 29 年度は特定事業所加算Ⅱ（10%）と処遇改善加算Ⅰ（13.7%）を取得し、より一層のサービスの質の向上を実現するため、個人教育の強化・専門的知識の共有により、利用者の満足のいく援助に努めてきました。また、利用者のニーズに対応するため細やかな状況把握を行い記録に残すようにしました。しかし、身体状況の変化で施設への入所者や入院者が増え、身体介護を必要とする利用者も減少し、新規契約者は増加しサービス利用数は微増しましたが介護報酬収は減収となりました。また、訪問介護員の確保も難しく、今後の課題です。

今年度で 12 回目の大寧寺清掃を行いました。継続していくことにより環境美化の意識を高め、地域に根付いたものとなるようにして行きます。

平成 30 年度は介護報酬改定に対応するため、自立支援を進める上で身体介護・生活援助の内容を明確化し、今後も援助の統一化・効率化を図り、適切で質の良いサービスの提供を行って参ります。

以上

平成29年度の実績

(1)月別利用者数(介護給付)

訪問介護支援事業所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
介護給付	要介護1	249	257	260	236	257	237	267	306	285	274	254	273	3,155 25.2%
	要介護2	328	400	336	349	328	309	315	319	316	319	319	365	4,003 31.9%
	要介護3	189	197	186	179	213	208	222	221	197	171	175	184	2,342 18.7%
	要介護4	138	129	75	73	59	56	54	52	53	58	60	65	872 7.0%
	要介護5	123	133	188	168	169	177	205	206	206	188	186	219	2,168 17.3%
	延人数	1,027	1,116	1,045	1,005	1,026	987	1,063	1,104	1,057	1,010	994	1,106	12,540
	月末人数	91	93	89	85	87	85	86	87	85	86	86	81	—
28年	延人数	1,043	1,298	1,080	984	957	956	963	972	966	908	899	926	11,952
	実人数	112	111	115	108	104	104	105	96	96	92	93	84	—
	増減	▲ 16	▲ 182	▲ 35	21	69	31	100	132	91	102	95	180	588
	月末人数	▲ 21	▲ 18	▲ 26	▲ 23	▲ 17	▲ 19	▲ 19	▲ 9	▲ 11	▲ 6	▲ 7	▲ 3	—
	延人数	213	200	206	206	215	185	173	145	142	118	128	150	2,081
	月末人数	20	20	20	19	19	19	18	19	20	20	20	24	—
	増減	▲ 47	▲ 36	▲ 39	▲ 34	▲ 59	▲ 22	▲ 7	9	6	9	▲ 6	▲ 35	▲ 261

(2)月別利用者数(予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
予防給付	要支援1	54	51	58	52	40	50	45	47	49	45	46	39	576 31.6%
	要支援2	80	89	85	97	87	84	95	81	78	62	56	76	970 53.3%
	事業対象者	32	24	24	23	29	29	26	26	21	20	20	23	297 16.3%
	延人数	166	164	167	172	156	163	166	154	148	127	122	115	1,820
	月末人数	25	27	27	28	25	26	27	28	25	23	24	24	—
	延人数	213	200	206	206	215	185	173	145	142	118	128	150	2,081
	月末人数	20	20	20	19	19	19	18	19	20	20	20	24	—
増減	延人数	▲ 47	▲ 36	▲ 39	▲ 34	▲ 59	▲ 22	▲ 7	9	6	9	▲ 6	▲ 35	▲ 261
	月末人数	5	7	7	9	6	7	9	9	5	3	4	0	—

(3)年齢構成

平成30年3月31日

年齢	男性	女性	計	割合
60歳未満	1	1	2	1.9%
60歳～64歳	0	2	2	1.9%
65歳～69歳	2	3	5	4.8%
70歳～74歳	3	1	4	3.8%
75歳～79歳	5	12	17	16.2%
80歳～84歳	4	16	20	19.0%
85歳～89歳	12	20	32	30.5%
90歳～94歳	2	16	18	17.1%
95歳～99歳	1	4	5	4.8%
100歳以上	0	0	0	0.0%
計	30	75	105	1
最高年齢	95	98		—
最低年齢	58	54		—
平均年齢	—	—	84.7	—

●平成29年度利用者補足

新規	36名
----	-----

●利用中止理由内訳

施設入居	17名
死 亡	10名
	名
計	27名

※3月末の利用休止者数:12名

平成29年度事業報告書

事業所：ゆもと苑相談支援事業所

1. 事業の概要

長門市においても『8050問題』が地域の課題として注目されている中、特定事業所としての事業にとどまることなく、時には一般事業所と同様の相談業務にもあたり、個人の課題を救い上げ、地域の課題として行政等に繋げる役割を果たせるよう努め、障害者の生活のしづらさや不安を解消できるよう取り組みました。

計画・プラン作成に於いては、「障害者差別解消法」「障害者の意思決定ガイドライン」を遵守し、本人や当事者の意思を尊重し、尚且つ障害者の地域生活が守られた内容となることを目的とし活動して参りました。

2. 事業の実績

具体的施策	実績
障害者・障害児支援のアプローチと新規拡大	<p>① 地域で暮らす障害者・障害児（引きこもり含む）の地域参加への啓発を図ることができた。</p> <p>② 引きこもりやSOSを出せない障害者や家族に対する相談支援の拡充ができた。</p> <p>③ 65歳到達障害者の介護保険への移行実施。</p>
地域貢献事業の実施と自立支援協議会の推進	<p>① 長門市障害者自立支援協議会への参加により、利用者の声や要望を届けられた。</p> <p>② 個人の課題を地域の課題として見据え、地域で解決できることは地域住民と一緒に考え、サポートすることが出来た。</p>

3. 事業の評価

水面下にある障害者（児）を民生委員らの力を借りながら地域参加への啓発を図り、一緒に活動することが出来た。また、ひきこもりやSOSを出せない障害者やその家族などに対し、話を聞くこと・手を差し伸べる事により相談支援へ繋げることができた。その反面、65歳に到達した障害者に対する介護保険への移行の難しさを痛感した。

行政の抱える問題や障害者が抱える多くの問題に積極的に関わり、共に取り組むことにより、個人因子・環境因子の改善に繋げ、長門市障害者支援協議会に参加することで様々な意見や要望を行政に届ける事が出来た。

障害者の自立支援を取り巻く環境は、まだまだ多くの課題を抱えていると考えるが、それら一つ一つに真摯に取り組んでいきたいと考える。

以上

平成29年度実績

【居宅介護】

相談支援事業所

(1)月別利用者日数(区分別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比	
区分別	区分1	5	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14	1.2%	
	区分2	13	13	10	12	13	13	11	14	24	23	25	195	16.2%	
	区分3	41	44	43	45	44	40	44	44	39	41	38	492	40.9%	
	区分4	14	15	15	15	13	16	15	4	11	12	12	154	12.8%	
	区分5	25	27	26	26	27	26	26	26	25	24	27	311	25.9%	
	区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	障害児	3	5	5	4	4	3	4	4	3	1	0	36	3.0%	
29年	延人数	101	111	101	102	101	98	100	92	103	103	97	93	1202	—
	登録人数	14	14	14	13	13	13	10	10	11	11	9	9	—	—
28年	延人数	135	129	116	120	119	124	112	110	115	103	107	112	1402	—
	登録人数	14	14	13	14	14	12	12	11	11	12	12	11	—	—
増減	延人数	▲34	▲18	▲15	▲18	▲18	▲26	▲12	▲18	▲12	0	▲10	▲19	▲200	—
	実人数	0	0	1	▲1	▲1	1	▲2	▲1	0	▲1	▲3	▲2	—	—

(2)月別利用者数(種別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比	
障害種別	身体	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	3	56	45.9%	
	知的	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14	11.5%	
	精神	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	40	32.8%	
	難病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	障害児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	9.8%	
29年	人数	11	11	10	10	10	10	10	10	11	11	9	9	122	—

【相談支援】

(3)月別利用者数(区分別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比	
区分別	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	区分2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	9.8%	
	区分3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	30	24.6%	
	区分4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	19.7%	
	区分5	19	19	19	19	19	19	16	16	16	16	16	210	172.1%	
	区分6	33	33	33	33	33	33	36	36	36	36	36	414	339.3%	
	非該当	11	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	140	114.8%	
29年	登録者数	69	70	70	70	70	70	70	70	68	68	68	830	—	
	計画数	1	3	4	3	4	2	1	23	3	4	3	27	78	—
28年	登録者数	63	63	63	63	63	63	63	63	63	69	69	768	—	
	計画数	3	2	3	1	2	3	1	25	3	2	2	28	75	—
増減	延人数	6	7	7	7	7	7	7	7	7	5	▲1	▲1	65	—
	実人数	▲2	1	1	2	2	▲1	0	▲2	0	2	1	▲1	3	—

(4)月別利用者数(種別・相談支援)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
種別	身体	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	33	27.0%
	知的	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	612	501.6%
	精神	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	191	156.6%
	難病												0	0.0%
	障害児												0	0.0%
	実人数	69	70	70	70	70	70	70	70	70	69	69	836	—

平成 29 年度事業報告書

事業所名：ゆもと苑デイサービスセンター

1. 事業の概要

ゆもと苑デイサービスセンターは平成 29 年度の方針に、①在宅生活の支援、②関係部署・家族との連携、③地域密着型デイとしての地域貢献 を掲げて取り組んで参りました。その結果は下記の事業の実績に記載の通りです。

また、今年度も昨年度に引き続き地域の皆様を対象に「出前介護教室」を開催致しました。これから迎える超高齢社会では在宅における介護の比重は高くなると予測されます。在宅介護のお手伝いの視点から、今後も継続して地域での介護教室に取り組み、地域密着型サービスとして関係機関と連携を取りながら良質なサービスを提供したいと考えております。

2. 事業の実績

	具体的施策	実 績
1	在宅生活の支援 (利用者の必要な能力の把握、ニーズの実現)	利用者ニーズに基づいた支援計画と身体状況を把握し、定期的なモニタリングを実施する中、新たなニーズの把握に努め支援計画の変更など個人の能力に合った質の高いサービス提供が出来た。
2	家族との連携 関係機関との連携や情報交換	通所介護計画に沿ったサービス提供をする中、家族と認識を共有し、家族の精神的緩和に努め、家族からの協力も得ることが出来るようになった。 定期的な居宅訪問では、最新の情報提供を行い居宅との信頼関係も向上した。
3	運営推進会議 介護教室 地域行事への参加	年 2 回の運営推進会議により必要な要望・助言などを聞く機会を設けることが出来た。 今年度も継続して出前介護教室を実施し福祉についての情報・技術を地域の高齢者に伝え貢献することが出来た。 地域行事や交流の場に参加し利用者の活動の場を広げ地域との交流を図った。

3. 事業の評価

今期は、昨年度からの利用者の入院や入所、短期入所施設の利用増加により、稼働率は上昇せず収入は伸び悩みました。このような状況のもと、今期は活動予定表

を毎月発行し、ご家族や居宅介護支援事業所を中心にPR活動も行い新規利用者の確保に努めてまいりました。また、介護教室だけでなく、送迎時のご家族との会話や連絡帳での情報交換により、悩み事などが引き出せるようにコミュニケーションを積極的に図り、その悩みごとの解決策を提案することで家族の介護軽減が出来るよう努めました。

ゆもと苑デイサービスセンターは認知症専門の通所介護事業所として、他の事業所にない専門性とノウハウを發揮し地域に貢献したいと考えます。その為には職員間の報告・連絡・相談を原点に情報交換を密に行い、個々の利用者に適した支援を提案・実現していきたいと思っております。外部研修にも参加し、より良い方策を積極的に取り入れ、利用者が快適に過ごせる環境を整え、従来の支援より一段上のランクを目指して取り組みたいと思っております。

以上

平成29年度の実績

(1)月別利用者日数(介護給付)

デイサービスセンター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比	
介護給付	要介護1	49	36	53	45	50	49	51	56	61	63	70	78	661	30.3%
	要介護2	20	27	21	32	36	20	22	21	25	10	15	14	263	12.0%
	要介護3	73	58	78	89	63	73	76	77	61	42	42	46	778	35.6%
	要介護4	14	28	22	22	20	14	16	18	22	31	26	21	254	11.6%
	要介護5	15	13	19	19	11	15	18	28	25	23	21	22	229	10.5%
	延人数	171	162	193	207	180	171	183	200	194	169	174	181	2,185	—
	実人数	25	23	22	23	22	23	25	26	26	25	24	23	—	—
年	延人数	229	218	205	207	219	218	185	189	191	175	162	213	2,411	—
	実人数	27	25	24	24	23	22	22	22	21	23	21	23	—	—
	増	延人数	▲ 58	▲ 56	▲ 12	0	▲ 39	▲ 47	▲ 2	11	3	▲ 6	12	▲ 32	▲ 226
	減	実人数	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 1	▲ 1	1	3	4	5	2	3	0	—
		2.57	2.72	2.65	2.7	2.48	2.57	2.61	2.71	2.61	2.65	2.5	2.42		
		171	162	193	207	180	171	183	200	194	169	174	181		

(2)月別利用者日数(予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
予防給付	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
	要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	年	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	増	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	減	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	171	162	193	207	180	171	183	200	194	169	174	181		

(3)年齢構成

平成30年3月31日

年齢	男性	女性	計	割合
60歳未満	0	0	0	0.0%
60歳～64歳	0	0	0	0.0%
65歳～69歳	0	0	0	0.0%
70歳～74歳	0	1	1	4.3%
75歳～79歳	0	2	2	8.7%
80歳～84歳	1	5	6	26.1%
85歳～89歳	1	7	8	34.8%
90歳～94歳	1	4	5	21.7%
95歳～99歳	0	1	1	4.3%
100歳以上	0	0	0	0.0%
計	3	20	23	
最高年齢	91.6	98.7	—	—
最低年齢	83.3	71.4	—	—
平均年齢	—	—	86.5	—

●平成29年度新規

入所前
18人
人
人
計
18人

●平成29年度退所

退所後
5人
5人
3人
死亡
5人
計
18人

平成29年度 事業報告書

事業所名：グループホームきららの里

1. 事業の概要

グループホームきららの里は、平成29年度の方針として、①利用者の自立した生活を送る為の支援 ②人材育成と連携 ③地域に役立つ事のできる施設運営に努める を掲げ、他事業所や病院関係等と連携し施設運営に努めました。

平成29年度は6名の利用者の退居と6名の利用者の入居があり満床で推移しています。グループホームは在宅型の施設で、家庭的な環境と地域住民との交流の下、日常生活のお世話や機能訓練を行うことで、少しでも認知症の進行を緩和させ、家族との繋がりを大切にしながら、入居者にとってその人らしく、安心して穏やかに過ごせるように支援することを目標としています。その目標達成のため、平成29年度は下記施策を実施致しました。

2. 事業の実績

	具体的な施策	実績
1.	利用者の自立した生活を送る為の支援	<ul style="list-style-type: none">・個別支援に繋げる為に、本人やご家族からの意向の確認を行い、ケース会議等で支援内容の確認やケアの統一に努めた。各担当者を中心に目標設定し、分析や評価等を行いサービスの充実を図った。・家族からの情報収集のため利用者の誕生日月に招待し、一緒に食事をする時間も設けているが、マンネリ化している為、内容を検討していきたい。
2.	人材の育成と連携	<ul style="list-style-type: none">・職員の研修への意識が高まっており、施設内研修への参加は出来た。しかし、自事業所でその内容を十分活かすことは出来なかった。・PDCAサイクルを活用し、業務の見直しや両館との連携が円滑に出来るように工夫してきた。今後も緊急時の対応や支援内容の共有を図っていきたい。
3.	地域に役立つ事のできる、施設運営に努める	<ul style="list-style-type: none">・4月に「施設見学会」、8月に在宅事業所が協同して「介護教室」を開催。・地域公益活動への参加協力やクリーンウォークへ利用者と共に参加し、地域の美化に努めた。

- ・地域資源の活用として食材の買い物や喫茶店へ外出、運動会への参加等、地域に出向き、気分転換や知人との交流が出来るように努めた。

3. 事業の評価

平成 29 年度はほぼ事業計画通りに実施出来たと考えます。

入居者は、平成 29 年 4 月に「平均介護度 1.9」であったものが、平成 30 年 3 月には「平均介護度 2.4」となりました。これは認知症の進行もありますが、高齢化による身体レベルの低下が要因と思われます。外出活動も行っておりますが、積極的参加が見受けられず、屋内で過ごす時間が長くなり、更に筋力低下を招いています。職員は認知症の多彩な症状の対応に苦慮しながらも、ケース会議等で情報の共有を図ったり他部署の職員との連携により問題解決に努めてきました。また、業務のマニュアル化や見直し、サービスの質の向上に PDCA サイクルを活用した業務改善にも取り組んでおります。

家族との関係性や情報は重要な支援の要素と考え、入居者に適切な支援をする為にも家族をきららの里へ招待する工夫や定期的に交流会を開催し、信頼関係の構築に努めきました。

今年度は介護支援専門員、介護福祉士の資格合格者や認知症専門員認定試験受験者なども居り、自己研鑽への意識が高くなっていると見受けられる。職場内研修への参加率上昇もその表れと感じる。更に、修得した知識や技術が活用できるようにしたいと考えます。

運営推進会議は、参加者が固定化しつつあるので、幅広く出席して頂けるよう工夫を凝らし、地域との連携も図って行きたいと思います。

以上

平成29年度の実績

(1)月別利用者日数(介護給付)

グループホームきららの里

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
介護給付	要介護1	180	155	150	155	155	120	124	120	124	62	56	62	1,463 22.9%
	要介護2	210	217	219	217	217	210	186	203	217	279	204	217	2,596 40.7%
	要介護3	150	186	150	155	186	210	242	208	167	186	168	191	2,199 34.5%
	要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	31	31	28	31	121 1.9%
	要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0% 0%
	延人数	540	558	519	527	558	540	552	531	539	558	456	501	6,379 —
	月末人数	18	18	17	17	18	18	17	17	18	18	16	17	— —
	28年	延人数	540	558	540	528	558	512	519	486	519	485	504	6,249 —
	実人数	18	18	18	18	18	18	17	18	18	17	18	17	— —
	増減	延人数	0	0	▲ 21	▲ 1	0	28	33	45	20	73	▲ 48	1 130 —
	月末人数	0	0	▲ 1	▲ 1	0	0	0	▲ 1	0	1	▲ 2	0	— —

(2)月別利用者日数(予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
予防給付	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
	要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	月末人数													—
	28年	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	月末人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	増減	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	月末人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—

(3)年齢構成

平成29年9月30日

年齢	男性	女性	計	割合
60歳未満	0	0	0	0.0%
60歳～64歳	0	0	0	0.0%
65歳～69歳	0	0	0	0.0%
70歳～74歳	0	0	0	0.0%
75歳～79歳	0	2	2	11.1%
80歳～84歳	0	5	5	27.8%
85歳～89歳	0	4	4	22.2%
90歳～94歳	0	6	6	33.3%
95歳～99歳	0	1	1	5.6%
100歳以上	0	0	0	0.0%
計	0	18	18	
最高年齢	0	95	—	—
最低年齢	0	78	—	—
平均年齢	—	—	86.4	—

●平成29年度新規

入所前
自宅
病院
人
計

●平成29年度退所

退所後
病院
施設
死亡
計

平成29年度事業報告書

特別養護老人ホーム 吉祥苑

1. 事業の概要

吉祥苑では、平成29年度において、①ユニットケアの実践、②全員経営の実践、③地域貢献の実践と、3つの基本方針を掲げ、施設の理念、基本方針を共有することで、チームの結束を図り、職種間の連携を強化しながら、事業計画の達成に向けた取組を行った。

2. 具体的施策の実績

	基本方針	主な取組の実績
1	ユニットケアの実践	<p>《入居者が自分の住まいと思える環境づくり》</p> <p>居室、リビング、セミパブリックスペース等の配置の見直しや整備をすることで、どこにいてもくつろげる場所づくりに取り組んだ。セミパブリックでは季節に応じた活動をすることが出来、入居者や家族にも楽しんでもらうことが出来た。</p> <p>《今までの暮らしを続けてもらえる暮らしづくり》</p> <p>一人ひとりの暮らしや、施設での目標を確認することで、日常的な暮らしを充実できるようにした。</p> <p>またPTに月1回来苑してもらい日常の訓練方法や、ポジショニングの指導をしてもらうことで、日々の生活の中で、本人、職員が実施継続していくことで、機能維持に努めた。</p> <p>《24時間の暮らしを保証する暮らしづくり》</p> <p>日常的な暮らしを充実させるためには、それぞれがリビングで出来ることを入居者と一緒に見つけたり、提供することで時間を有効に過ごしてもらった。</p> <p>ユニット会議や各種委員会を行うことで、チームケアの実践や、業務の統一化など図っていった。</p> <p>特に身体拘束廃止委員会や、事故防止委員会では改めて意識を高めてもらう会議内容とした。</p> <p>感染予防対策委員会では研修や業者と連携することで、消毒薬の見直しを行い、感染を最小限に抑えることが出来た。</p>

2	全員経営の実践	<p>《理念に基づき、全員参加で経営》</p> <p>連絡会議や昼会などの連絡事項を徹底することで経営の目的、目標の徹底を行った。</p> <p>新入職員研修と合わせて、29年度は中堅職員研修の取り組みを行うことで、スキルアップに繋げた。</p> <p>《情報の共有化を推進》</p> <p>会議報告などの様式を統一することで、記録の統一化に努め、記録内容の整理を行った。</p> <p>介護リーダー会議やスタッフ会議を行うことで情報の共有化を図るとともに、伝達の徹底を行った。</p> <p>《創意工夫で業務を効率化》</p> <p>P D C Aを基に職員全員から改善報告の提出を求めた結果135件の報告があり、様々な工夫が出来、効率化につながったと思う。</p>
3	地域貢献の実践	<p>《地域での公益的な取り組み》</p> <p>ゆもと苑全体で取り組んだ公益活動に2度の参加。クリーンウォークは毎回の参加は出来ているが、スタッフ全員が交代で参加できるよう仕組みづくりを行う。</p> <p>《信頼と協力を得る取り組み》</p> <p>「吉祥苑だより」で家族への情報発信を充実させた。実習生の受け入れや施設見学会を開催することにより、地域交流の活動は出来てきている。</p>

3. 事業の評価

平成29年度の入居状況（定員80名）は月末の入居者平均が78, 2名（前年度は78, 4名）であった。

事業計画は3つの基本方針を掲げ、それぞれに重点目標を上げ、より具体的な内容で一つ一つに注視し取り組んでいった。ユニットケアの実践については、より自分らしい生活が出来ることを目標に居室、リビング、パブリックの環境づくりに取り組み、特にセミパブリックの雰囲気を変えることができた。

QC活動の取り組みについては、特に今年度中国四国ブロック大会に参加し経験を積む事が出来た。2月発表会では全ユニットが業務改善をテーマに活動し、目標を達成出来たのではないかと考える。

業務改善についてはP D C Aサイクルを理解する目的で、「改善報告書」を全職員に

提出して頂き、情報の共有化にも繋げていくことが出来た。

地域貢献については吉祥苑全体での取り組みが出来ていないので、今後は地域貢献の内容の検討が必要になってくる。

年度末から記録のＩＴ化が開始となり、試験入力中。今後は職員全員が入力でき内容の充実と効率化に繋がることを期待する。

今後は介護リーダーを中心として、ユニットケアの取り組みを継続し、さらなる職員の意識向上に取り組んでいく。

平成29年度の実績

(1)月別利用者日数(介護給付)

吉祥苑(入居)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
介護給付	要介護1									31	28	31	90	0.3%
	要介護2	180	155	150	155	166	150	155	186	217	217	196	217	2,144 7.5%
	要介護3	540	523	510	522	487	465	548	540	527	523	447	601	6,233 21.9%
	要介護4	903	956	979	1,017	900	933	973	900	893	912	814	891	11,071 38.9%
	要介護5	720	775	750	775	811	798	782	750	779	744	603	620	8,907 31.3%
	延人数	2,343	2,409	2,389	2,469	2,364	2,346	2,458	2,376	2,416	2,427	2,088	2,360	28,445
	実人数	77	79	78	77	76	79	81	79	79	79	80	80	—
28年	延人数	2,400	2,445	2,365	2,435	2,432	2,351	2,454	2,358	2,434	2,465	2,156	2,435	28,730
	実人数	80	77	79	78	78	78	79	79	80	77	76	80	—
増減	延人数	▲ 57	▲ 36	24	34	▲ 68	▲ 5	4	18	▲ 18	▲ 38	▲ 68	▲ 75	▲ 285
	実人数	▲ 3	2	▲ 1	▲ 1	▲ 2	1	2	0	▲ 1	2	4	0	—

(2)月別利用者数(予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
予防給付	要支援1					該当なし							0	0%
	要介護2												0	0%
	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	実人数												—	—
	延人数												0	—
	実人数												—	—
	増減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—

(3)年齢構成

平成30年3月31日現在

年齢	男性	女性	計	割合
60歳未満	0	0	0	0.0%
60歳～64歳	0	0	0	0.0%
65歳～69歳	0	0	0	0.0%
70歳～74歳	0	0	0	0.0%
75歳～79歳	0	3	3	3.8%
80歳～84歳	2	8	10	12.8%
85歳～89歳	4	21	25	32.1%
90歳～94歳	3	20	23	29.5%
95歳～99歳	1	16	17	21.8%
100歳以上	0	0	0	0.0%
計	10	68	78	
最高年齢	95	99	—	—
最低年齢	82	75	—	—
平均年齢			89	—

●平成29年度新規

入所前	
在 宅	6 人
病 院	5 人
施 設	12 人
計	23 人

●平成29年度退所

退所後	
病 院	12 人
死 亡	12 人
	人
計	24 人

平成29年度事業報告書

特別養護老人ホーム 吉祥苑 短期入所生活介護

1. 事業の概要

吉祥苑では、平成29年度において、①ユニットケアの実践、②全員経営の実践、③地域貢献の実践と、3つの基本方針を掲げ、施設の理念、基本方針を共有することで、チームの結束を図り、職種間の連携を強化しながら、事業計画の達成に向けた取組を行ってきました。

2. 具体的施策の実績

基本方針	主な取組の実績
1 ユニットケアの実践	<p>《入居者が自分の住まいと思える環境づくり》</p> <p>居室、リビング、セミパブリックスペース等の配置の見直しや整備をすることで、どこにいてもくつろげる場所づくりに取り組んだ。セミパブリックでは季節に応じた活動をすることが出来、ショート利用者にも楽しんでもらうことが出来た。</p> <p>《在宅での暮らしを続けてもらえる暮らしづくり》</p> <p>一人ひとりの暮らしや、施設での目標を確認することで、在宅の継続が出来るように、日常的な暮らしを充実できるようにした。</p> <p>日々の生活の中で散歩や体操などを組み込むことで、機能維持に努めた。</p> <p>《24時間の暮らしを保証する暮らしづくり》</p> <p>日常的な暮らしを充実させるためには、それぞれがリビングで出来ることをショート利用者と一緒に見つけたり、提供することで時間を有効に過ごしてもらった。ユニット会議や各種委員会を行うことで、チームケアの実践や、業務の統一化など図っていった。特に身体拘束廃止委員会や、事故防止委員会では改めて意識を高めてもらう会議内容とした。感染予防対策委員会では研修や業者と連携することで、消毒薬の見直しを行い、感染を最小限に抑えることが出来たため、ショートステイでも感染症の発生を抑えることが出来た。</p>

2	全員経営の実践	<p>《理念に基づき、全員参加で経営》</p> <p>連絡会議や昼会などの連絡事項を徹底することで経営の目的、目標の徹底を行った。</p> <p>新入職員研修と合わせて、29年度は中堅職員研修の取り組みを行うことで、スキルアップに繋げた。</p> <p>《情報の共有化を推進》</p> <p>会議報告などの様式を統一することで、記録の統一化に努め、記録内容の整理を行った。</p> <p>介護リーダー会議やスタッフ会議を行うことで情報の共有化を図るとともに、伝達の徹底を行った。</p> <p>《創意工夫で業務を効率化》</p> <p>P D C Aを基に職員全員から改善報告の提出を求めた結果135件の報告があり、様々な工夫が出来、効率化につながったと思う。</p>
3	地域貢献の実践	<p>《地域での公益的な取り組み》</p> <p>公益活動推進協議会に2度参加。クリーンウォーカーは毎回の参加は出来ているが、スタッフ全員が交代で参加できるよう仕組みづくりを行う。</p> <p>《信頼と協力を得る取り組み》</p> <p>「ショートステイ連絡帳」で家族への情報発信を充実させた。実習生の受け入れや施設見学会を開催することにより、地域交流の活動は出来てきている。</p>

3. 事業の評価

平成29年度のショートステイ利用状況は、前期が1日平均6,8に比べ、後期は7,4と上昇し年間平均が7,1だった。29年度は全体的に新規利用が多く、年間30名の利用があり居宅も長門全域からの依頼があった。

事業計画は3つの基本方針を掲げ、それぞれに重点目標を上げ、より具体的な内容で一つ一つに注視し取り組んでいった。ユニットケアの実践については、より自分らしい生活が出来ることを目標に居室、リビング、パブリックの環境づくりに取り組み、特にセミパブリックの雰囲気を変えることができた。

QC活動の取り組みについては、特に今年度中国四国ブロック大会に参加し経験を積む事が出来た。2月の発表会では全ユニットが業務改善をテーマに活動し、目標を達成出来たのではないかと考える。ショートステイユニットでは忘れ物を減らそうと言う取り組みを行い、忘れ物の数を減らし、評価を出すことが出来たと思う。

業務改善についてはP D C Aサイクルを理解する目的で、「改善報告書」を全職員に提出して頂き、情報の共有化にも繋げていくことが出来た。

地域貢献については吉祥苑全体での取り組みが出来ていないので、今後は地域貢献の内容の検討が必要になってくる。

年度末から記録の I T化が開始となり、試験入力中。今後は職員全員が入力でき内容の充実と効率化に繋がることを期待している。

今後は介護リーダーを中心として、ユニットケアの取り組みを継続し、さらなる職員の意識向上に取り組んでいきます。

平成29年度の実績

(1)月別利用者日数(介護給付)

吉祥苑(SS)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
介護給付	要介護1	36	16	12	33	8	28	20	38	34	19	23	21	288 11.4%
	要介護2	100	102	94	129	80	53	59	49	42	43	52	71	874 34.6%
	要介護3	39	54	59	86	76	93	112	119	115	105	104	106	1,068 42.3%
	要介護4	19	19	11	3	9	14	27	16	3	23	30	40	214 8.5%
	要介護5	3	0	0	3	0	4	2	12	9	9	23	16	81 3.2%
	延人数	197	191	176	254	173	192	220	234	203	199	232	254	2,525 —
	実人数	23	22	20	26	23	24	27	25	25	26	30	26	— —
28年	延人数	154	175	168	190	174	225	215	221	224	219	192	231	2,388 —
	実人数	20	20	22	24	21	25	22	20	20	21	21	27	— —
	増減	43	16	8	64	▲ 1	▲ 33	5	13	▲ 21	▲ 20	40	23	137 —
	実人数	3	2	▲ 2	2	2	▲ 1	5	5	5	5	9	▲ 1	— —
	延人数													
	実人数													
	増減													

(2)月別利用者日数(予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	構成比
予防給付	要支援1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2 5%
	要介護2	5	0	0	0	12	9	6	0	3	0	0	3	38 95%
	延人数	5	0	0	0	12	9	8	0	3	0	0	3	40 —
	実人数	1	2	2	2	3	3	2	0	1	0	0	1	17 —
	延人数	4	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	23 —
	実人数	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3 —
	増減	1	0	0	0	12	9	8	▲ 19	3	0	0	3	17 —
	実人数	0	2	2	2	3	3	2	▲ 2	1	0	0	1	14 —

(3)年齢構成

平成29年9月30日現在

年齢	男性	女性	計	割合
60歳未満	0	0	0	0.0%
60歳～64歳	0	0	0	0.0%
65歳～69歳	1	0	1	3.7%
70歳～74歳	0	1	1	3.7%
75歳～79歳	0	1	1	3.7%
80歳～84歳	2	4	6	22.2%
85歳～89歳	3	4	7	25.9%
90歳～94歳	0	8	8	29.6%
95歳～99歳	0	3	3	11.1%
100歳以上	0		0	0.0%
計	6	21	27	
最高年齢	95	98	—	—
最低年齢	78	69	—	—
平均年齢	—	—	87.8	—

●平成29年度利用者補足

新規	29名
----	-----

●利用中止理由内訳

吉祥苑入居	6名
その他施設入居	3名
入院	5名
計	14名

施設の概況

平成30年 3月31日

1. 施設の種別 障害福祉サービス事業所（多機能型） 定員 就労移行支援 6名・就労継続支援B型 34名
2. 職員配置 16名 施設長1名・管理者1名・サービス管理責任者1名は兼務
就労移行支援 生活支援員1名（兼務）・就労支援員1名・職業指導員1名
就労継続支援B型 生活支援員4名（1名兼務1名パート）・目標工賃達成指導員1名
職業指導員4名（1名パート）
調理員2名（パート1名）・嘱託医1名（非常勤）
3. 利用者数 就労移行支援 0名（身体 名 知的 名 精神 名 手帳なし 名）
就労継続支援 45名（身体 16名 知的 17名 精神 11名 手帳なし 1名）
4. 就労移行支援の現状

5. 障害等級別・男女別

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	その他	手帳なし	計	
	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精		身:療:精	合計
男	1: 3: 2	5: 8: 5	2: 0: 1	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	1: 10: 7	28
女	1: 3: 0	4: 5: 1	1: 0: 2	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 6: 7: 4	17
計	2: 6: 2	9: 13: 6	3: 0: 3	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	1: 16: 17: 11	45

6. 年齢別・男女別

	18~	20~	25~	30~	35~	45~	50~	60~	手帳なし	計	
	身:療:精		身:療:精	合計							
男	0: 1: 0	1: 4: 0	0: 1: 2	0: 0: 2	0: 2: 3	1: 0: 0	4: 0: 0	3: 2: 1	1: 10: 7	28	
女	0: 1: 0	0: 0: 1	0: 1: 0	0: 1: 1	2: 0: 0	1: 1: 0	1: 1: 1	1: 2: 3: 0	0: 6: 7: 4	17	
計	0: 2: 0	1: 4: 1	0: 2: 2	0: 1: 3	2: 2: 3	2: 1: 0	5: 1: 1	5: 5: 1	1: 16: 17: 11	45	

7. 通所期間別・男女別

	1年未満	1年以上	3年以上	5年以上	10年以上	15年以上	20年以上	25年以上	手帳なし	計	
	身:療:精		身:療:精	合計							
男	0: 1: 3	5: 2: 3	0: 2: 0	1: 4: 1	1: 0: 1	0: 1: 0	1: 0: 0	1: 0: 0	1: 10: 7	28	
女	0: 1: 0	0: 3: 1	0: 1: 1	3: 2: 0	0: 1: 1	1: 0: 0	0: 0: 0	2: 0: 0	0: 6: 7: 4	17	
計	0: 2: 3	5: 5: 4	0: 3: 1	4: 6: 1	1: 1: 2	1: 1: 0	1: 0: 0	3: 0: 0	1: 16: 17: 11	45	

8. 工賃日額別・男女別

	300円未満	300円以上	500円以上	700円以上	800円以上	900円以上	1,000円以上	1,300円以上	手帳なし	計	
	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精	身:療:精		身:療:精	合計
男	1: 1: 1	3: 1: 0	1: 7: 2	2: 0: 2	1: 0: 0	1: 0: 0	0: 0: 0	0: 2: 3	1: 10: 7	28	
女	0: 0: 0	4: 2: 0	2: 3: 4	0: 0: 0	0: 1: 0	0: 1: 0	0: 0: 0	0: 0: 0	0: 6: 7: 4	17	
計	1: 1: 1	7: 3: 0	3: 10: 6	2: 0: 2	1: 1: 0	1: 1: 0	0: 0: 0	0: 2: 3	1: 16: 17: 11	45	

9. 年間工賃収入別・男女別

	3万円未満	3万円以上	10万円以上	15万円以上	20万円以上	25万円以上	30万円以上	35万円以上	手帳なし	計	
	身:療:精		身:療:精	合計							
男	1: 1: 1	1: 1: 3	1: 2: 0	1: 2: 0	2: 3: 1	2: 0: 0	1: 0: 0	0: 1: 3	1: 10: 7	28	
女	0: 1: 0	1: 1: 0	3: 2: 0	1: 1: 2	1: 1: 1	0: 1: 0	0: 1: 0	0: 0: 0	0: 6: 7: 4	17	
計	1: 2: 1	2: 2: 3	4: 4: 0	2: 3: 2	3: 4: 2	2: 1: 0	1: 1: 0	0: 1: 3	1: 16: 17: 11	45	

10. 男女別平均年齢

人数	歳	ヶ月	最高年齢	最低年齢
男	28	42	4	74
女	17	48	2	80
合計	45	44	6	-----

身体障害者単独は、 11名
知的障害者単独は、 18名
精神障害者単独は、 9名

身体・知的は、 4名
身体・精神は、 1名
知的・精神は、 1名

手帳なし(難病) 1名

小計 45名

11. 男女別通所期間

人数	最近の通所開始日			
	年	ヶ月	年	ヶ月
男	28	6	1	30 12
女	17	9	7	30 19
合計	45	7	5	-----

身体・知的は、 4名
身体・精神は、 1名
知的・精神は、 1名

手帳なし(難病) 1名

小計 45名

12 平均利用者数

	延べ利用者数				平均利用者数		
	移行	継続	合計	前年比	移行	継続	合計
平成27年度	480	8,544	9,024	210	1.8	31.8	33.6
平成28年度	42	9,254	9,296	272	0.2	34.5	34.6
平成29年度	20	9,298	9,318	22	0.1	34.6	34.7

平成29年度行事報告

年月日	行 事	備 考
29 5	14 山口県障害者スポーツ大会（きらりんピック）	利用者4名
	23 山口県社会就労事業振興センター理事会	
	2 山口県障がい福祉サービス協議会理事会	
	19 職場体験実習（萩総合支援学校）	
	25 長門市障害者スポーツ大会（ルネッサ長門）	利用者・職員44名
	27 「社会を明るくする運動」講演会	
	28 大埠りサイクル工場作業見学会	市内B型施設
	28 長門市自立支援協議会（全体会）	
	10 障害者虐待防止研修会	
	14 保健担当者研修	
7	26 長門市保健福祉推進会議	
	27 全国社会就労センターハウス（神戸）	職員1名参加
	8 職場体験実習（萩総合支援学校）	
	24 萩総合支援学校進路懇談会	
9	11 農福連携事業説明会（津田農園栗拾い体験）	
	12 長門市共同受発注事業（長門スポーツ公園横発電所草取り）	市内B型4施設参加
	16 1日バス旅行（S L 山口号新型客車）	利用者・保護者・職員59名
	30 福祥苑・作業センター合同ふれあいひろば	
10	10 職場実習（萩総合支援センター）	
	20 長門保護司会施設見学（16名）	
	21 長門市保健推進会議	
	25 障害者合同面接会（萩）	利用者1名参加
	26 山口県総合福祉大会（周南市）	
11	6 社会就労センター中四国大会（松江）	職員1名参加
	11 長門介護フェスタ（手芸品販売）	
	13 インフルエンザ予防接種（福永病院）	
12	5 山口県障害者芸術文化祭手芸の部奨励賞受賞（利用者）	
	18 長門市きらめき作品展（ウェーブ）21日まで	
	23 利用者忘年会（大谷山荘）	利用者・職員50名
	29 仕事納め・大掃除	
30 1	6 社会就労事業振興センター販売会（小野田サンパーク）	
	24 成年後見制度の説明会	保護者、利用者、職員23名
	2 長門圏域農福連携会議	
	14 苦情受付担当者研修会	
	16 自立支援協議会就労部門交流会	
	21 レクリエーション（ボウリング・カラオケ）	利用者・職員39名
	31 年度末反省会	

毎月職員会議・給食会議および利用者代表者会議を開催しています。